



陸前高田市における 生活交通に関するアンケート 調査結果

令和 5 年 11 月
陸前高田市



1 市民アンケート調査の概要

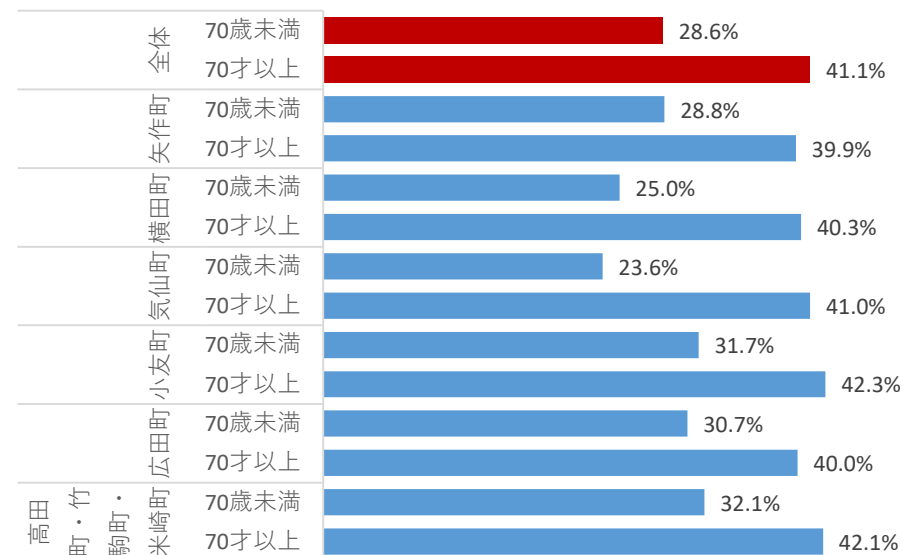
■調査概要

対象	● 住民基本台帳に記載されている19歳以上の市内在住者から、地域ごとに定めた配布数に達するまでランダムに選出
対象時期	● 令和5年7月31日（月）東京都内局より郵送 ● 8月18日（金）投函〆切（消印有効）
配布・回収方法	● 郵送配布・郵送回収
回収実績	● 回収数587票（回収率35.2%）
質問事項	<ul style="list-style-type: none"> ● 普段の移動の実態 ● 公共交通の認知状況及び利用状況 ● 公共交通に対する満足度及び不満理由 ● 公共交通への要望 ● 自動運転バスの利用状況、認知度 ● 回答者の属性 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>本アンケートでは、公共交通について①BRT②県交通路線③市内路線④デマンド交通⑤モビタ⑥支え合い交通⑦タクシーと定義しています。</p> </div>

■配布数

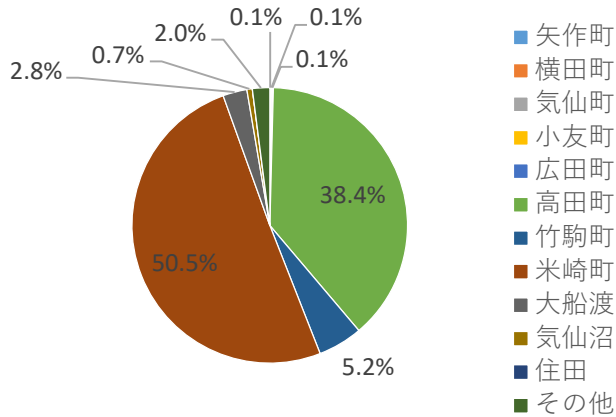
地区	配布数	
	19～69歳	70歳～
矢作町	139	138
横田町	140	139
気仙町	140	134
小友町	139	137
広田町	140	140
高田町・竹駒町・米崎町	140	139
合計	838	828
	1,666	

■回収率【全体、地域別】

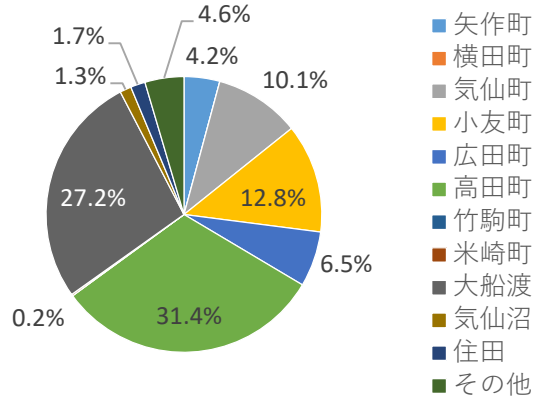


2 普段の移動実態

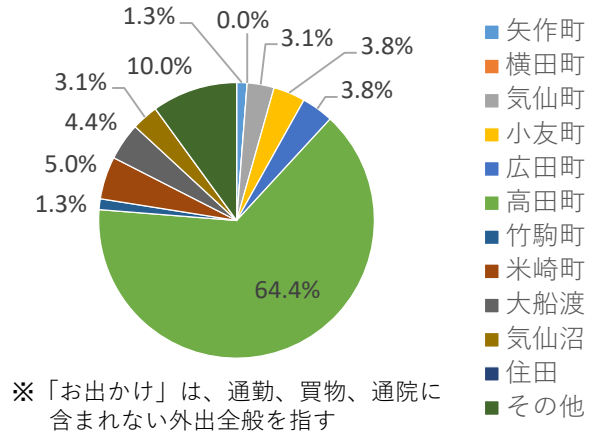
■買物先 (N=747)



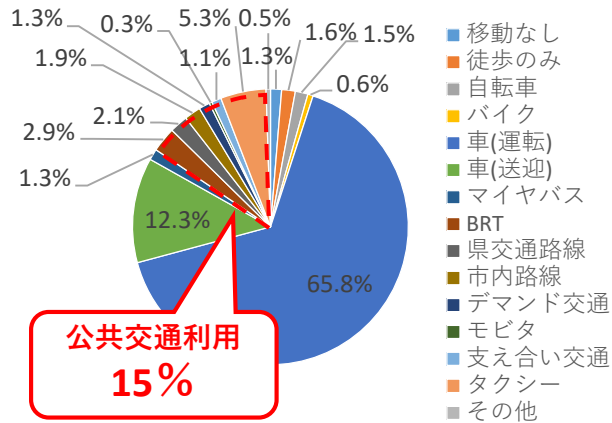
■通院先 (N=525)



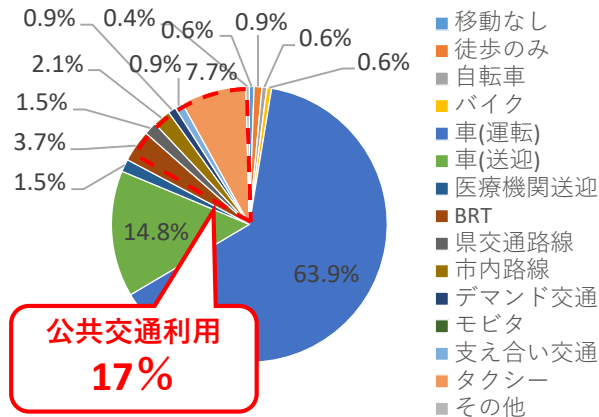
■お出かけ先 (N=160)



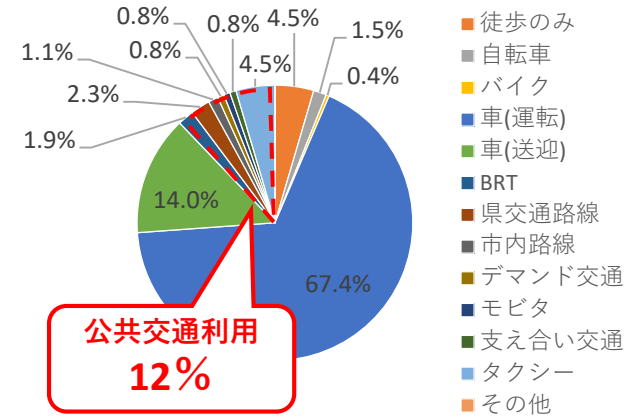
■利用交通機関 買物 (N=617)



■利用交通機関 通院 (N=534)



■利用交通機関 お出かけ (N=264)

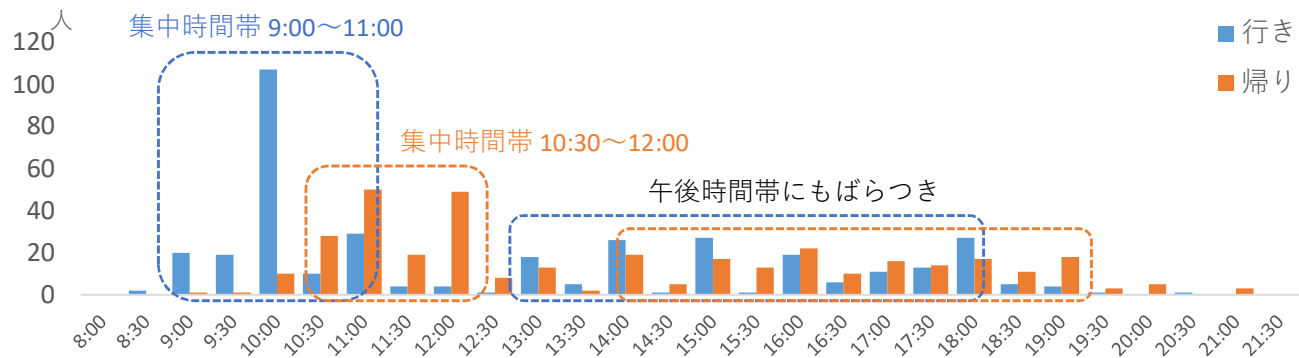


※グラフの数値の合計が100%とならない場合がある。以下同じ。

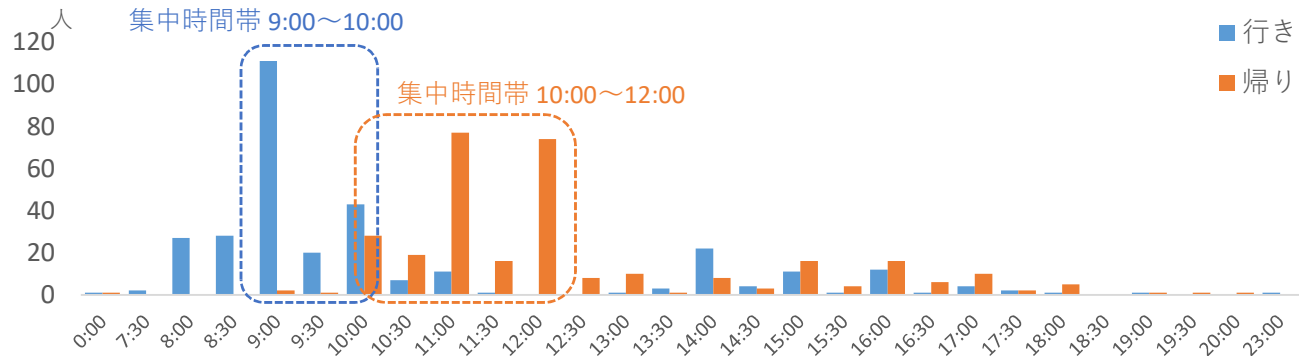
- 買物については、米崎町と高田町に集中。車(運転)が約66%。公共交通の利用は約15%。
- 通院については、高田・大船渡の県立病院が中心。公共交通の利用は約17%。
- お出かけについては、高田町が6割以上を占める。公共交通の利用は約12%。

3-1 移動時間帯

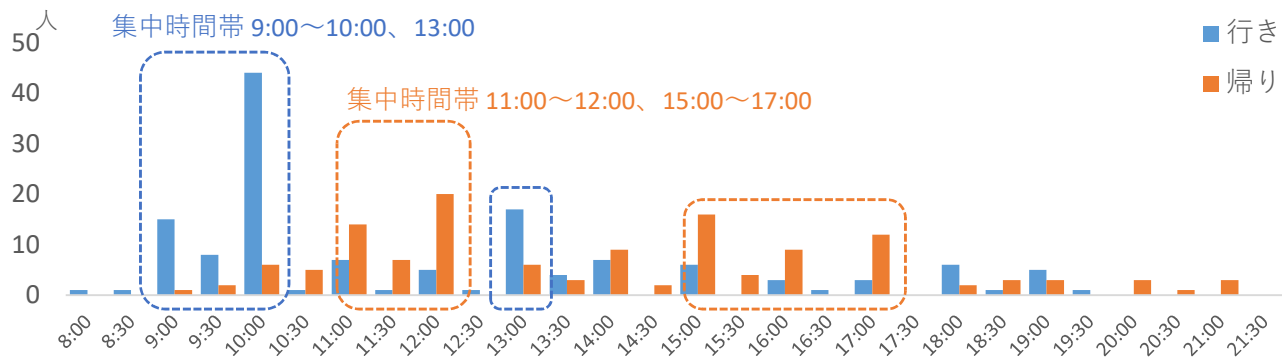
■買物先 時間帯分類



■通院先 時間帯分類



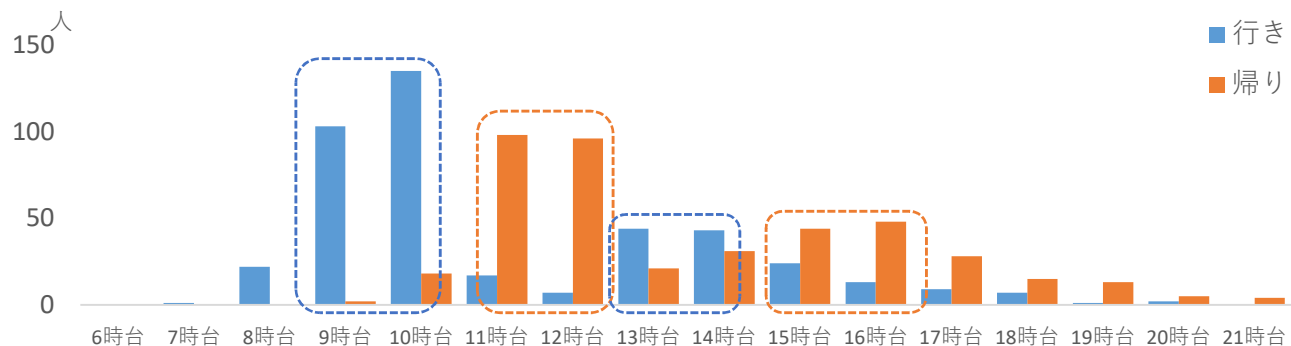
■お出かけ先 時間帯分類



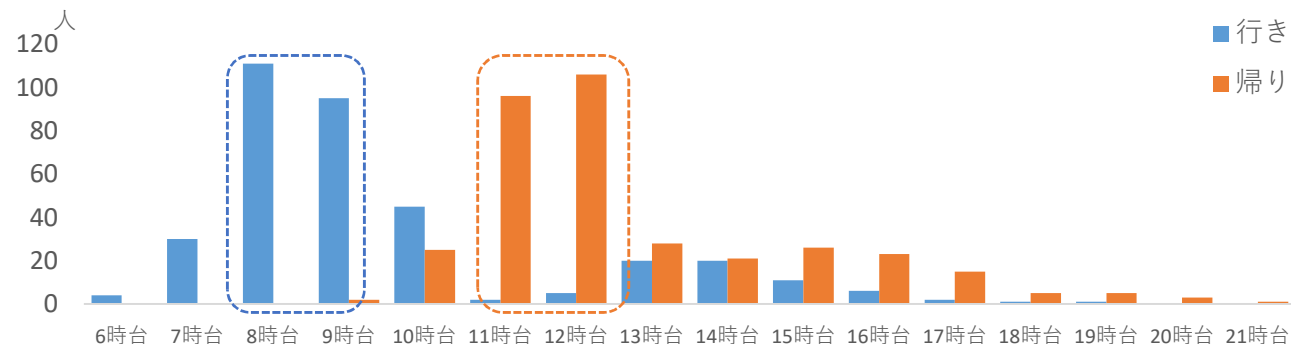
- 買物については、行きが午前10時頃、帰りが午前11時頃と正午頃に集中している。
- 通院については、行きが午前9時～10時頃、帰りが11時頃と12時頃に集中している。
- お出かけについては、分散傾向にあるが、特に行きは10時頃に集中している。

3-2 公共交通を運行してほしい時間帯

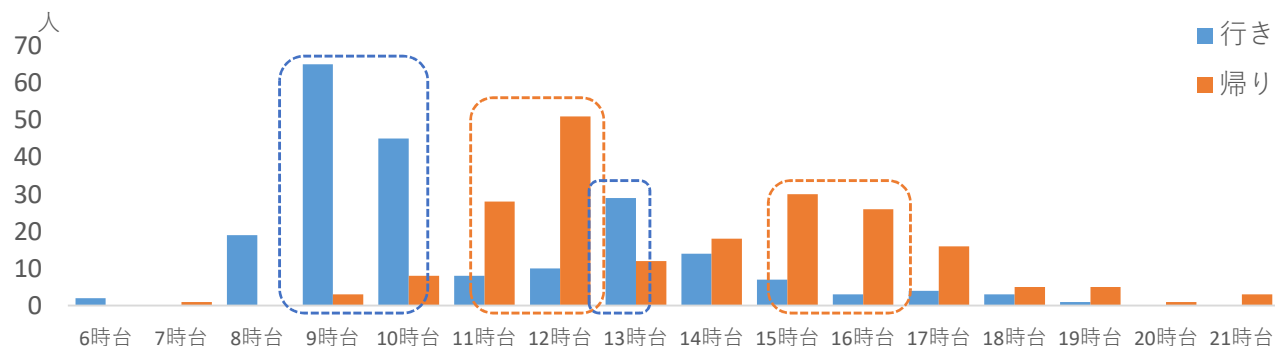
■公共交通を運行してほしい時間帯 買物（第2希望まで）



■公共交通を運行してほしい時間帯 通院（第2希望まで）



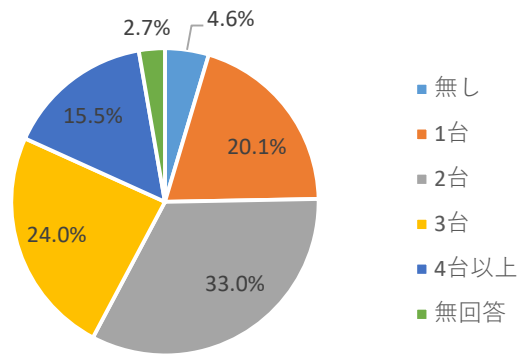
■公共交通を運行してほしい時間帯 お出かけ（第2希望まで）



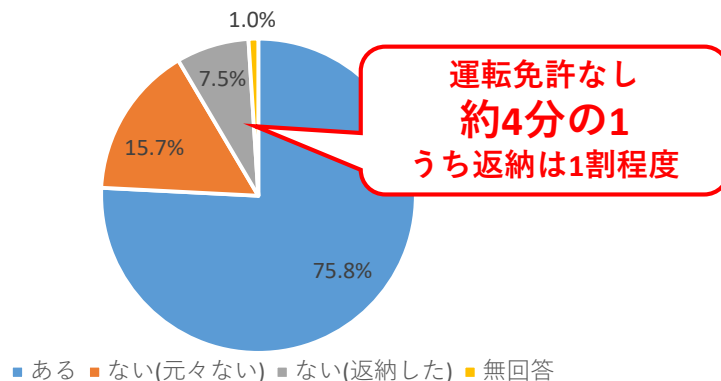
- 行きの公共交通を運行してほしい時間帯は、実際の移動時間帯より1時間程度早い傾向にあり、わずかにニーズのずれが生じている。
 - また公共交通運行の希望はないものの、夕方にも一定の買物行動がみられる。
 - 帰りは概ね整合している。
- ※いずれも前頁参照

4 自家用車及び運転免許の保有状況

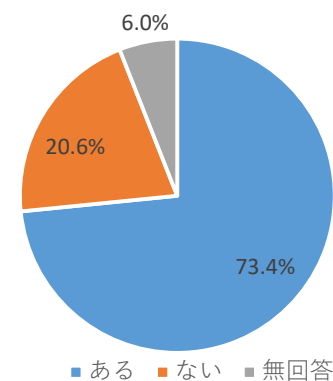
■世帯での自家用車の保有台数



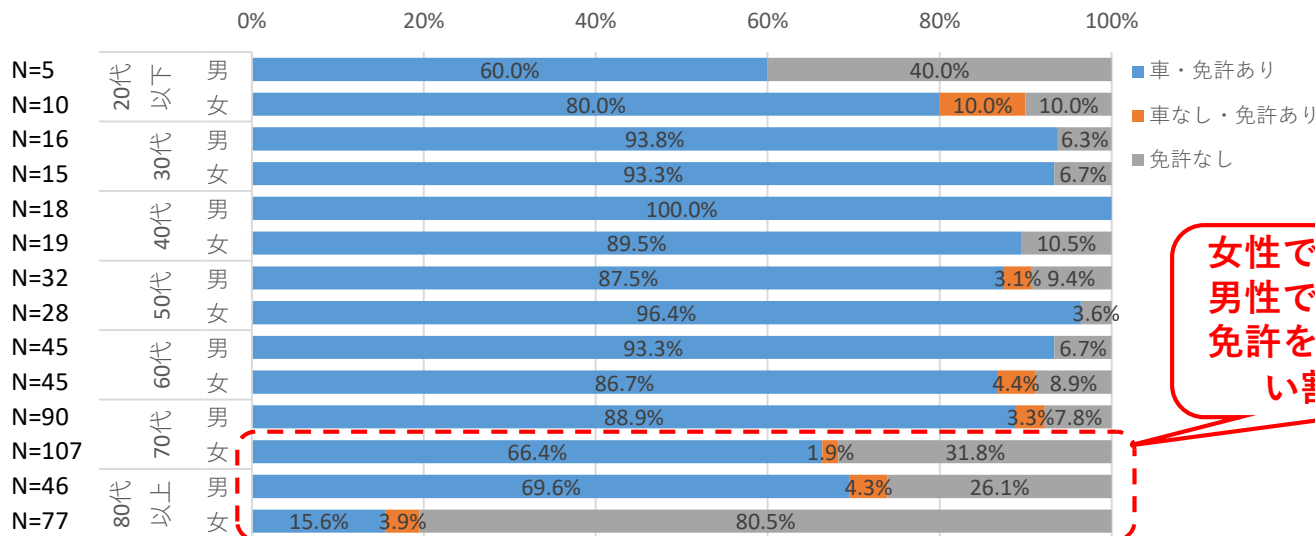
■運転免許の有無



■自分で自由に使える車の有無



■年代別運転免許・自由に使える車の保有状況

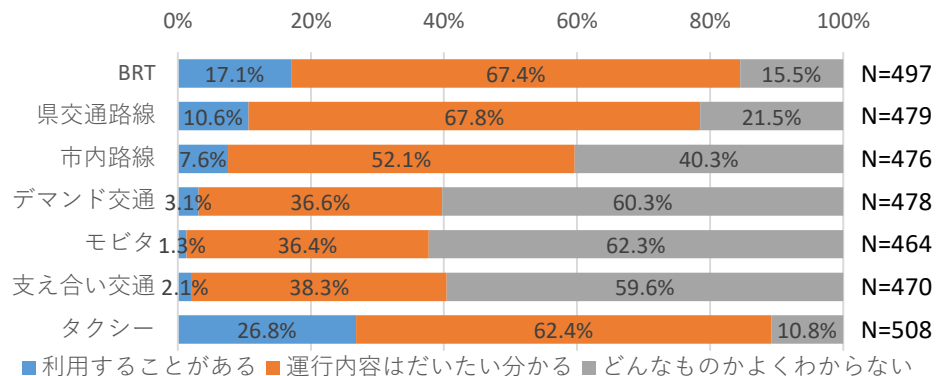


女性では70代以上、男性では80代以上で免許を保有していない割合が高い

- 自家用車を保有していない世帯は約5%である。車両台数は2台以上の保有が多い。
- 免許がない、もしくは昼間時間帯に家族が車両を持ち出す等の理由により、自家用車を自分の自由に使えない人も少なくない。
- 特に女性では70代以上、男性では80代以上で免許を保有していない割合が高い。

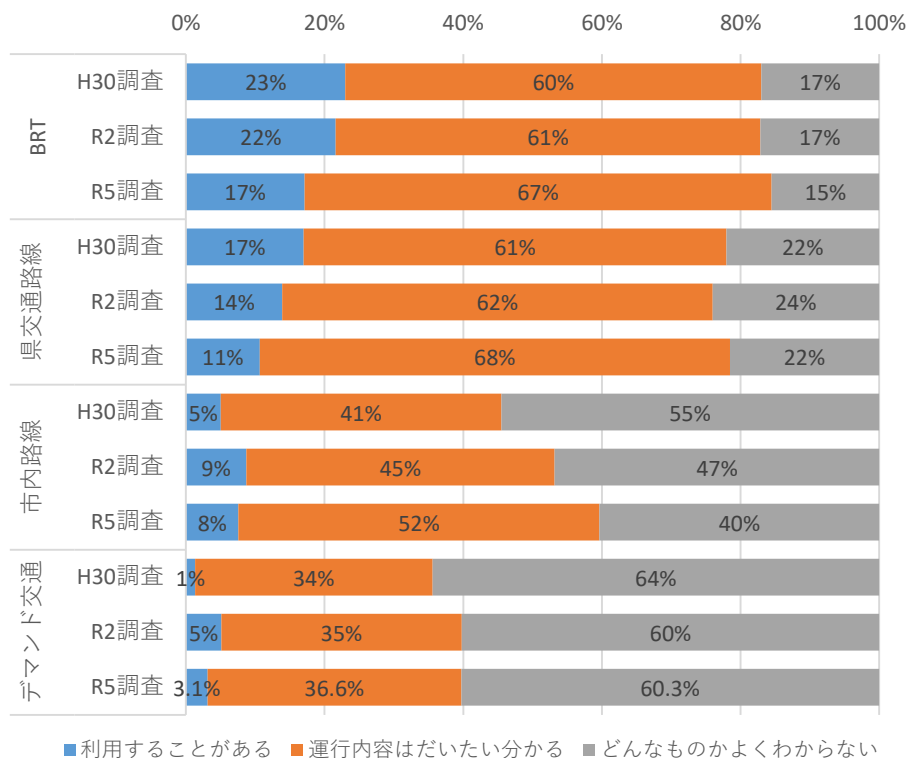
5 - 1 市内公共交通の認知状況

公共交通の認知度 全体



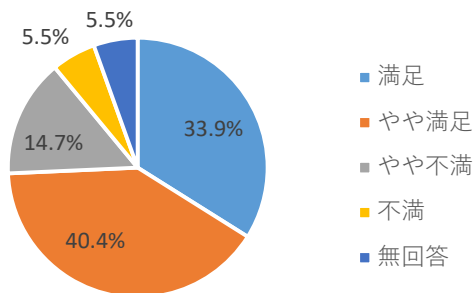
- 市内公共交通の認知度は、タクシーが最も高く、次いでBRT、県交通路線の順に高い。
- 認知度の過去比較としては、概ね横ばいの傾向である。

公共交通の認知度 過去比較

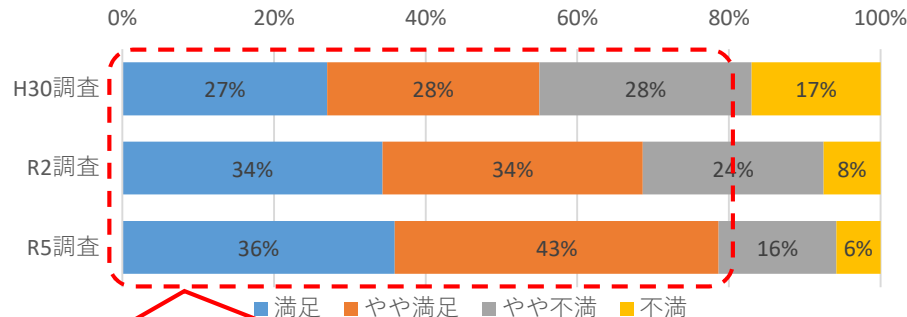


5-2 市内公共交通の満足度

■市内公共交通の満足度（※利用者に質問 N=109）



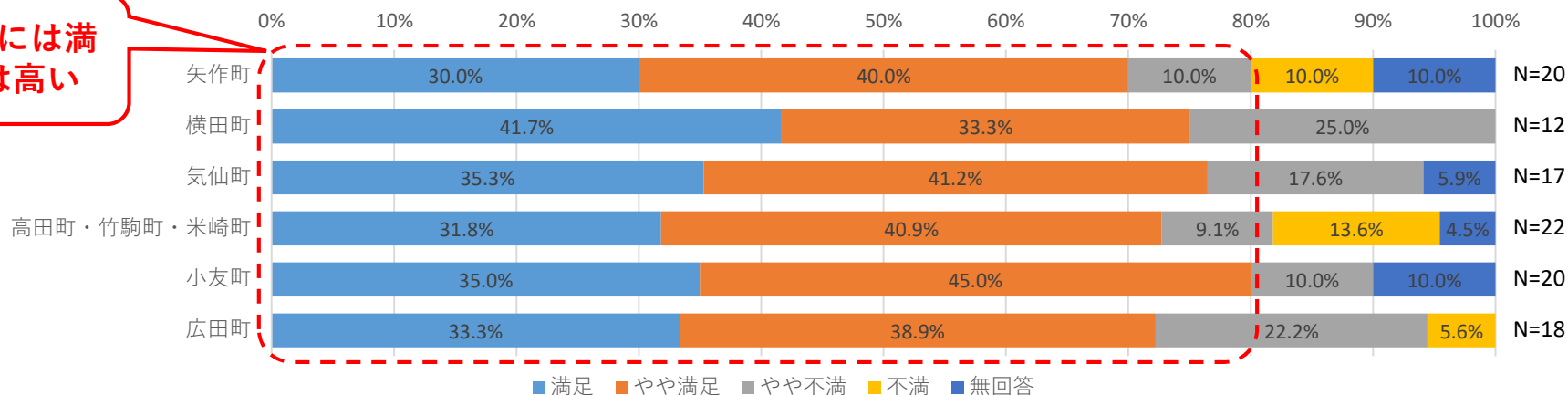
■市内公共交通の満足度 過去比較 ※無回答を除いて再集計した



「満足」「やや満足」と答えた人の割合は改善傾向

■市内公共交通の満足度 地域別（高田・竹駒・米崎を統合）

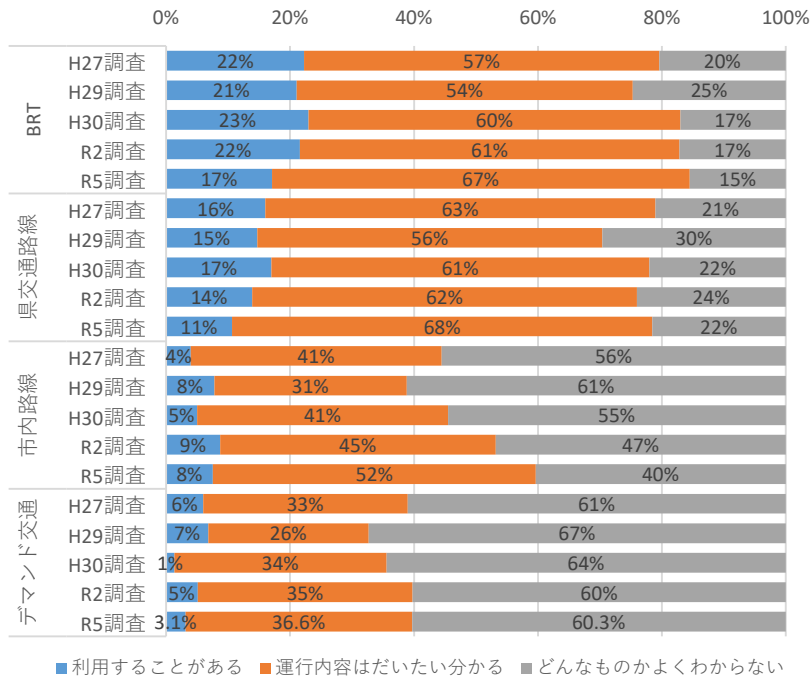
全体的には満足度は高い



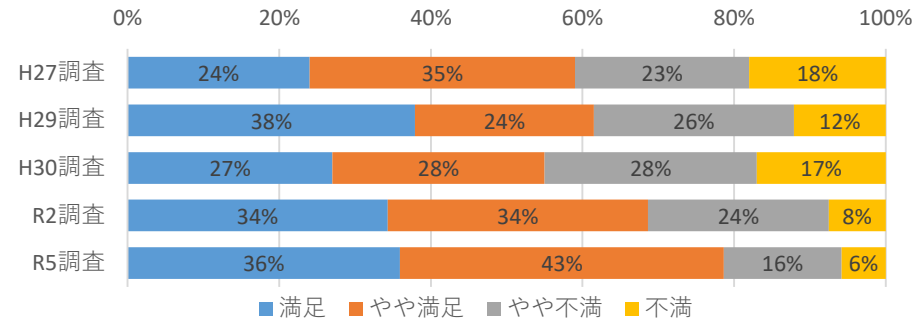
- 市内公共交通の満足度は改善傾向にあり、「満足」と「やや満足」をあわせた割合は全体の4分の3を占める。
- 満足度は改善傾向にあり割以上が「満足」・「やや満足」と回答している
- 今回タクシーを選択肢に加えたこともあり満足度が高まった。

5 市内公共交通の認知状況及び満足度（参考）

■公共交通の認知度 過去比較

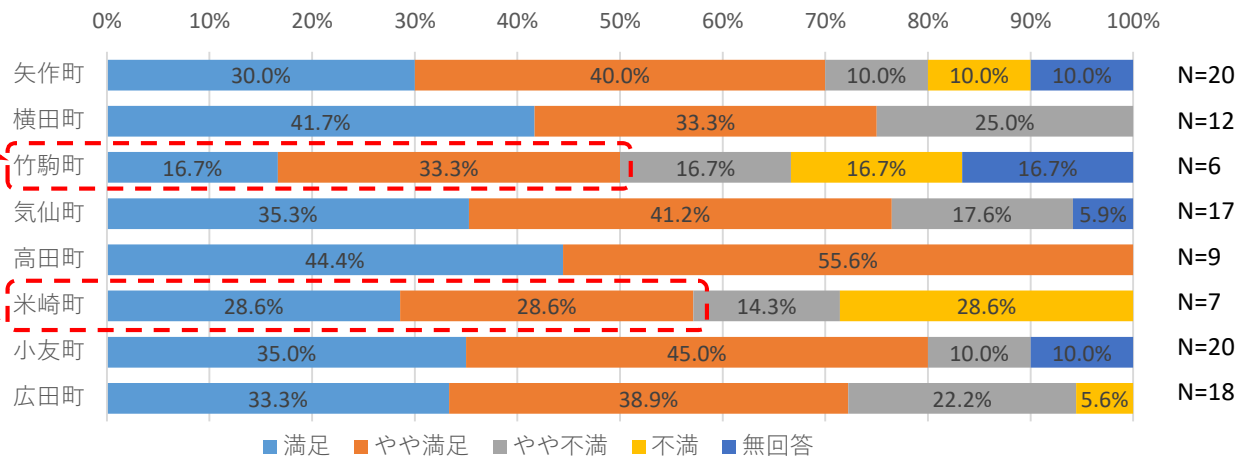


■市内公共交通の満足度 過去比較



● 地区別に中心部をみると高田町は満足度が高い一方で、竹駒町・米崎町の満足度は低く、中心市街地において満足度の差が広がっている。

■市内公共交通の満足度 地域別

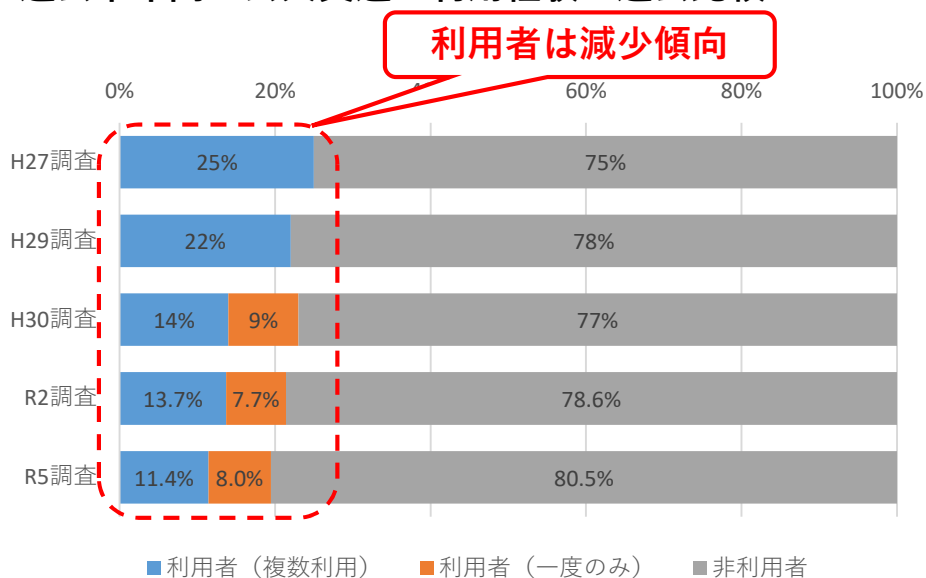


竹駒のみ「満足」「やや満足」が半数に届かない

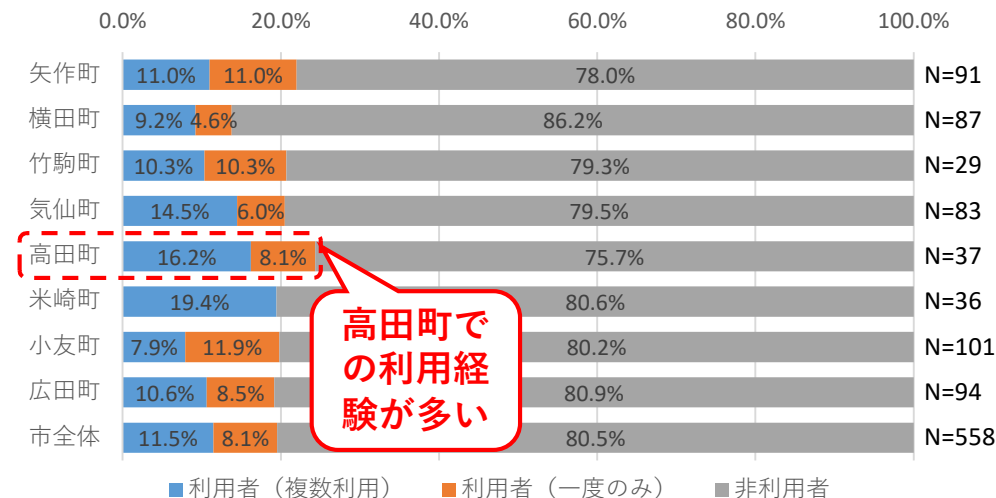
高田町では満足度が高いが、竹駒町・米崎町では低くなっている

6 市内公共交通の利用実態

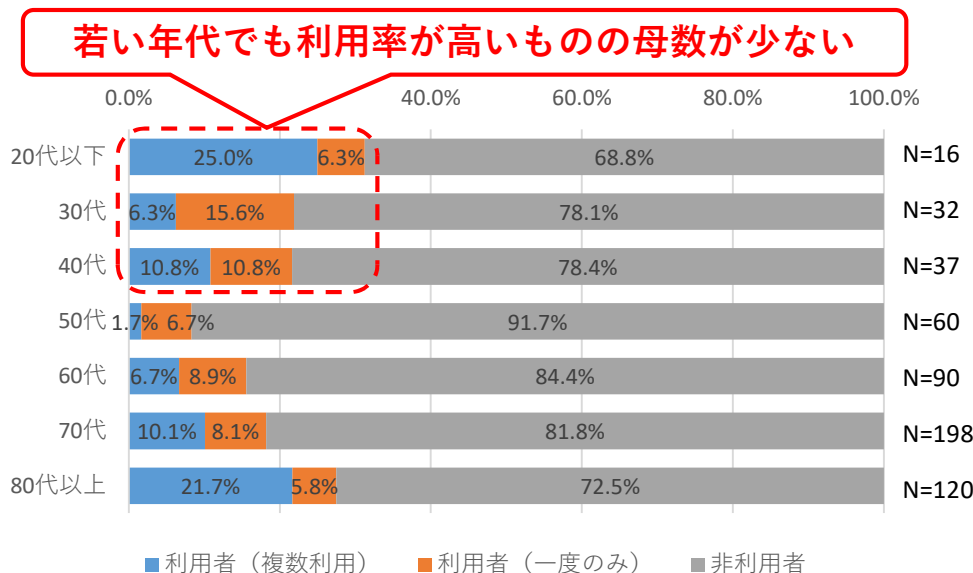
■過去半年間の公共交通の利用経験 過去比較



■過去半年間の公共交通の利用経験 地区別



■過去半年間の公共交通の利用経験 年代別



- 過去半年間に公共交通を利用した人の割合は減少傾向だが、コロナ禍の影響が大きいものと思われる。
- 年代別では20代以下が最も高く（ただし母数は少ないため注意が必要）、次いで80代以上である。
- 地区別では、「複数回」と「一度のみ」をあわせた割合は、高田町が最も高くなっている。

7 市内公共交通の不満理由

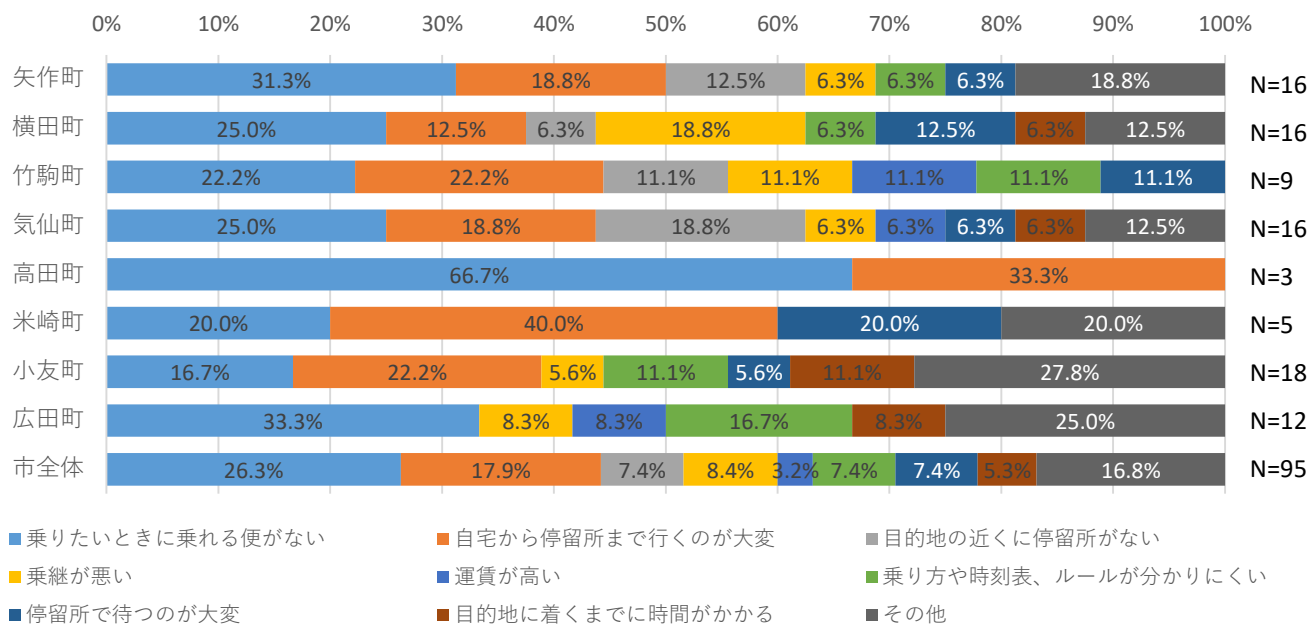
公共交通機関別不満理由 N=80 (複数回答)



不満点は、便数やダイヤに関するものが多い

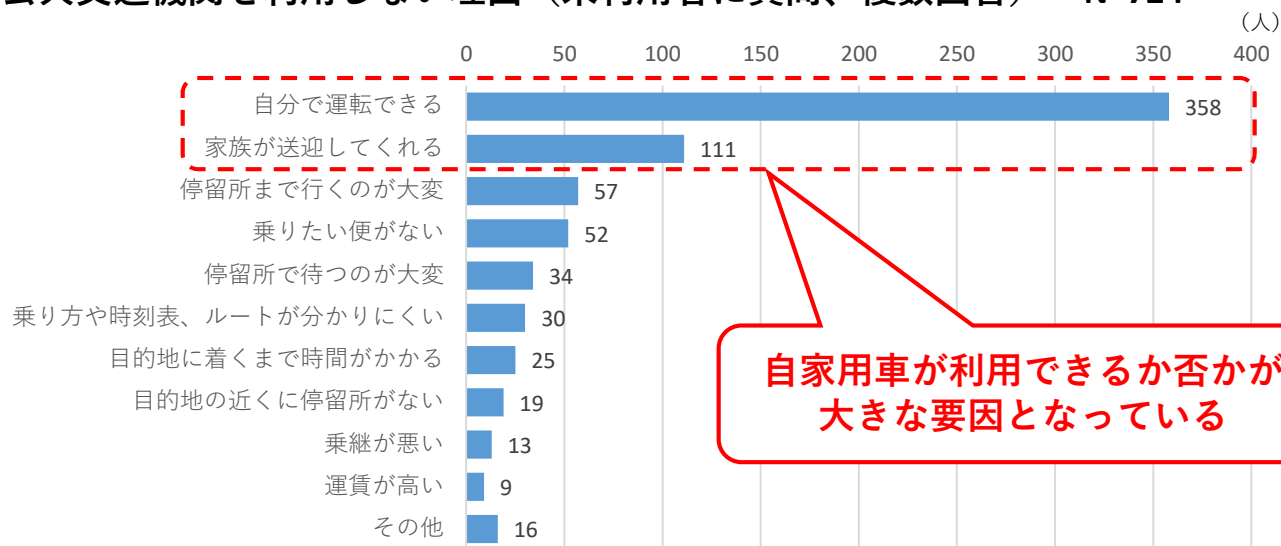
- 公共交通に対する不満理由としては、「乗りたいときに乗れる便がない」という、移動欲求とダイヤ・ルートの不整合に起因する不満が最も多い。
- 公共交通機関別にみると利用者の多いBRTが最も多く、県交通路線、市内路線への不満も多い。
- 地域別でも概ね同様の傾向である。

公共交通機関別不満理由 地域別



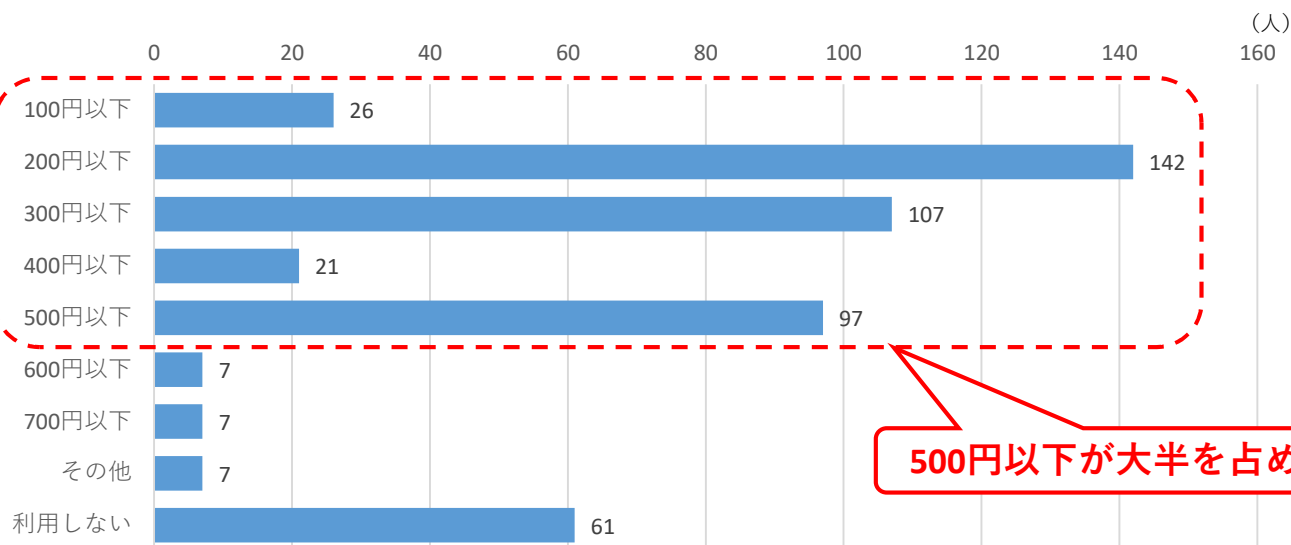
8 その他（公共交通を利用しない理由及び無理なく利用できる運賃）

■公共交通機関を利用しない理由（未利用者に質問、複数回答） N=724



- 公共交通を利用しない理由は、自家用車（運転・送迎）の利用が可能である点大きい。

■中心市街地まで移動する際に公共交通機関が無理なく利用できる運賃 N=475

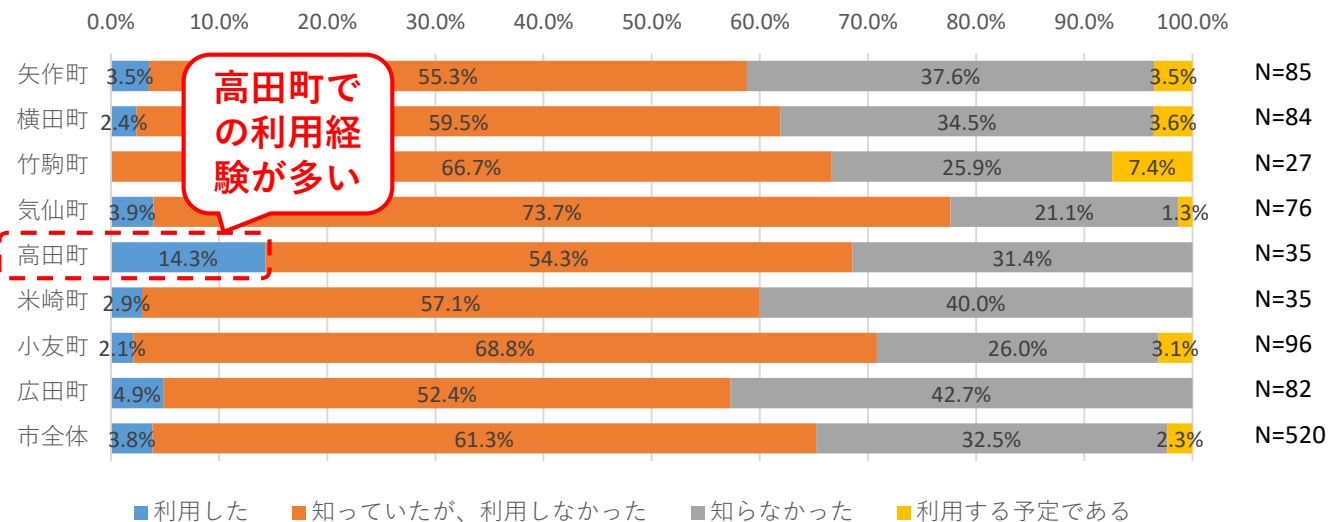


- 中心市街地までの移動は、公共交通が無理なく利用できる運賃としては、300円以下の範囲とする意見が多く、500円以下の範囲とする意見も一定数ある。

500円以下が大半を占める

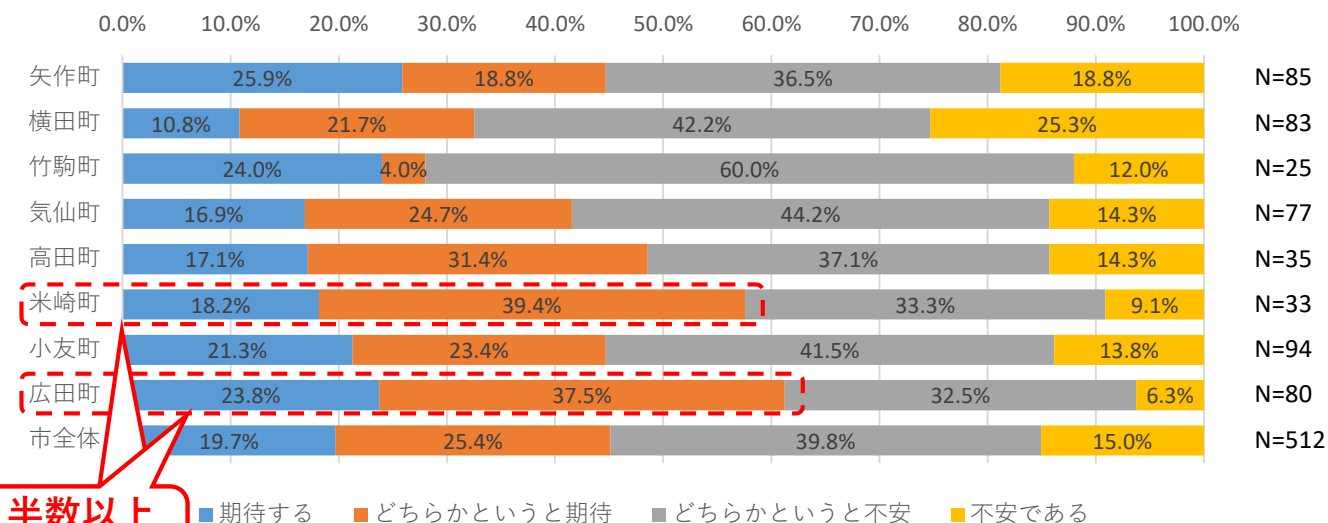
9 その他（自動運転バスの導入・地区別）

■自動運転バスの走行実験の利用



- 自動運転バスの走行実験については、全地区で半数以上が知っていた。
- 実際に利用した人は高田町で特に多い。

■自動運転バスの導入への期待

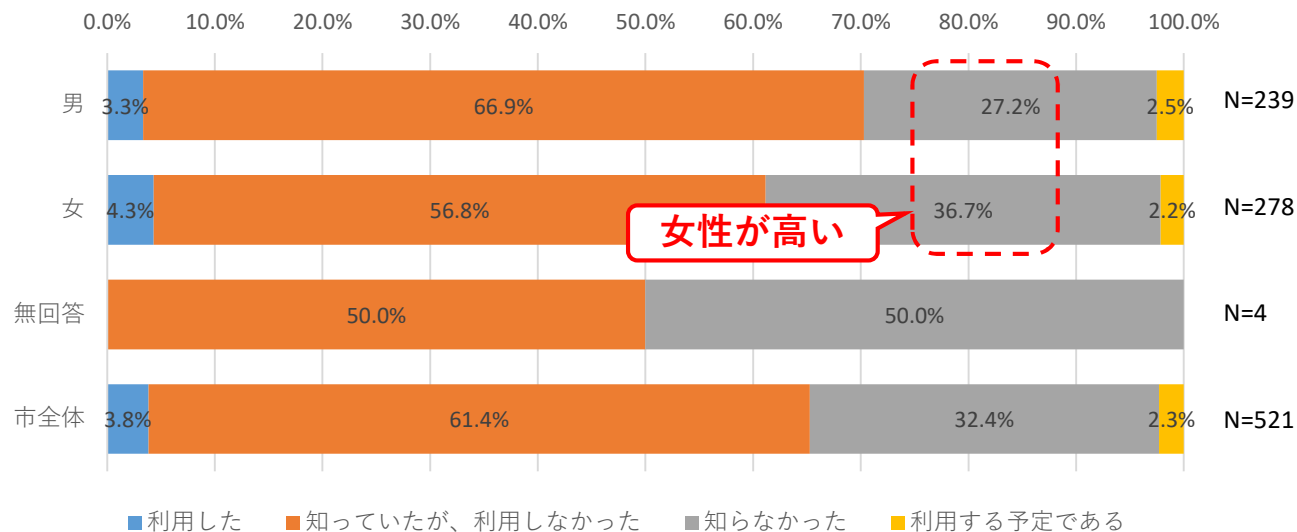


- 自動運転バスの導入については、期待と不安に分かれている。
- 地区別にみると米崎町や広田町での期待が高い。

半数以上が期待

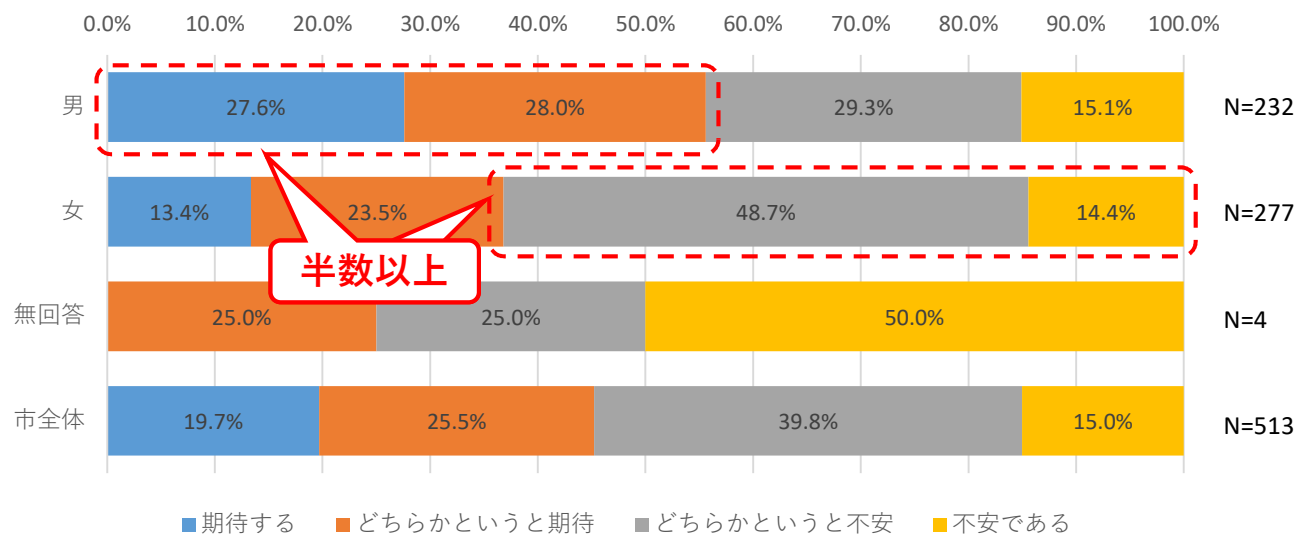
9 その他（自動運転バスの導入・男女別）

■自動運転バスの走行実験の利用



- 自動運転バスの走行実験については、利用した人は女性の割合が多い。
- 知らなかった人も女性の割合が高かったことから、広報手段が課題となる。

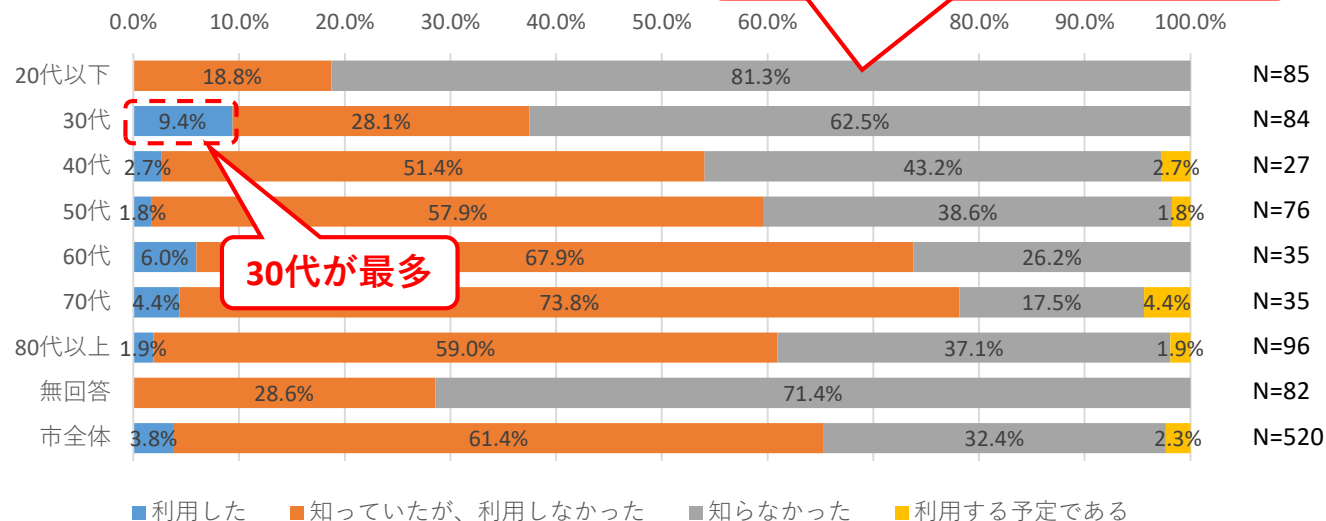
■自動運転バスの導入への期待



- 自動運転バスの導入については、期待と不安に分かれている。
- 男性は半数以上が期待しているのに対し、女性は不安が半数以上多い。

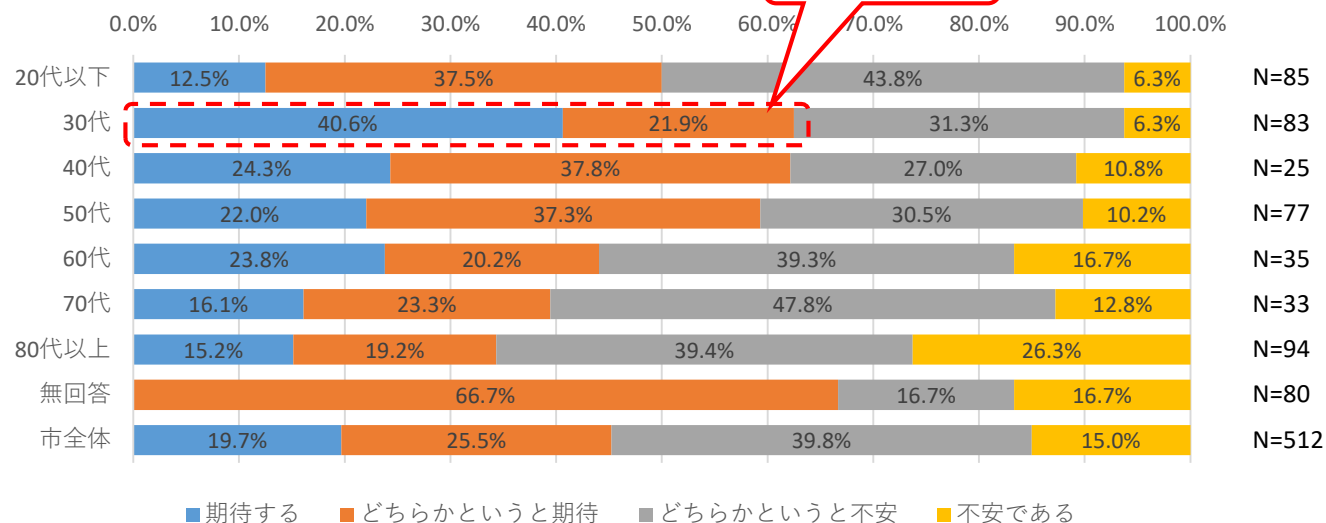
9 その他（自動運転バスの導入）・年代別

■自動運転バスの走行実験の利用



- 自動運転バスの走行実験については、年代が上がるほど認知度が高い傾向にある。
- 実際に利用した人は30代が特に多い。

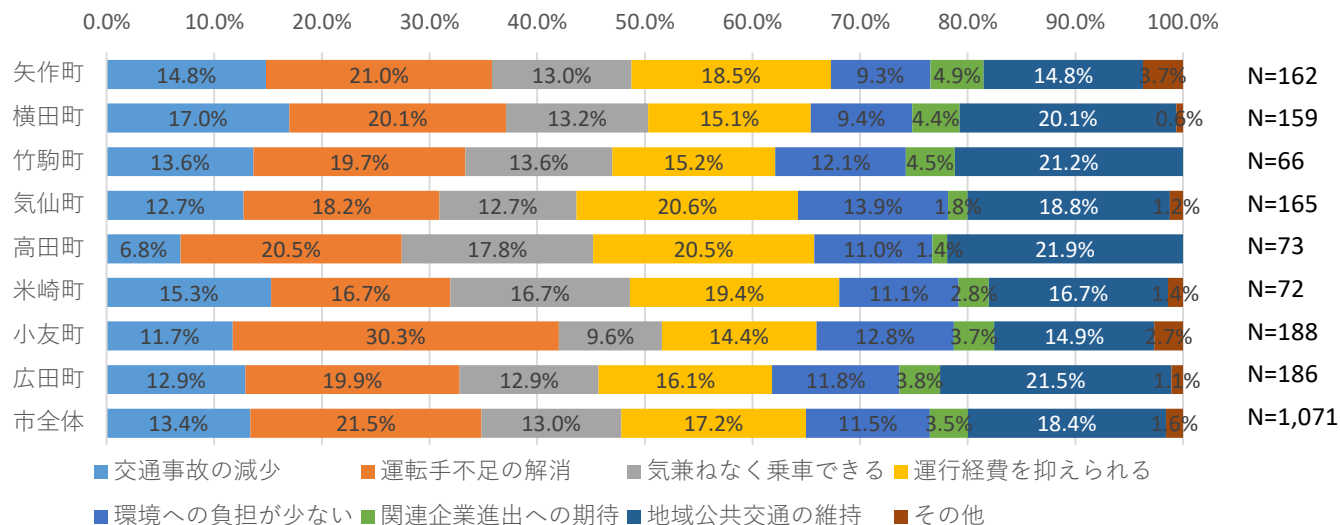
■自動運転バスの導入への期待



- 自動運転バスの導入への期待は30代が最も高く、年代が上がるほど不安が多くなる傾向。

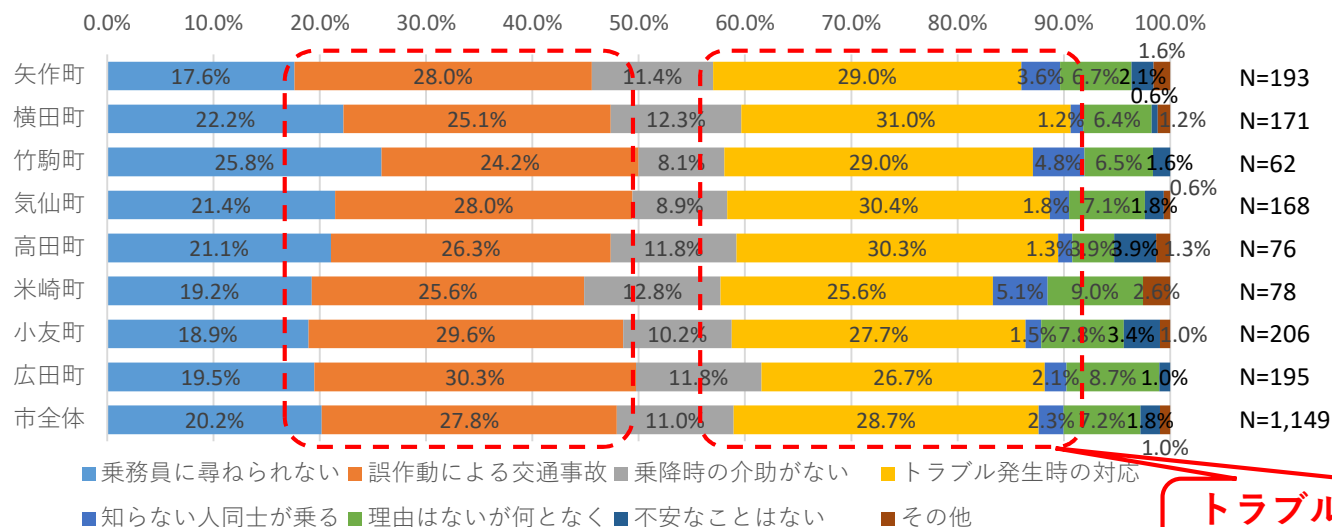
9 その他（自動運転バスへの期待と不安・地区別）

■自動運転バスの導入に期待すること（複数回答）



● 自動運転バスの導入に期待する上位3つは「運転手不足の解消」、「地域公共交通の維持」、「運行経費を抑えられる」である。

■自動運転バスの導入に不安に思うこと（複数回答）

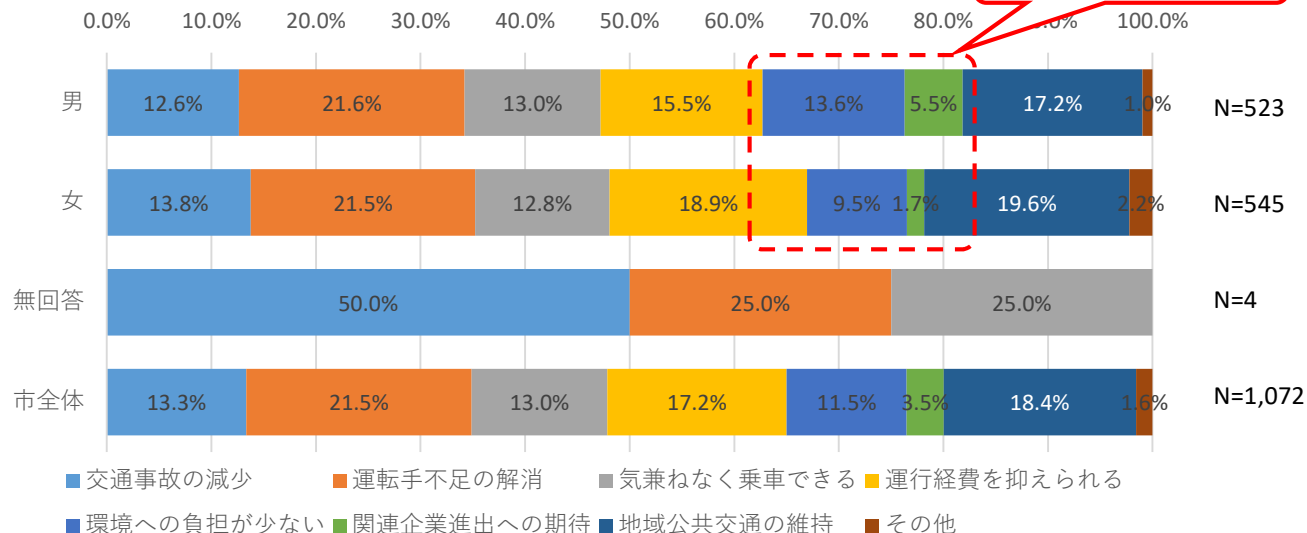


● 自動運転バスの導入に不安に思うことは「トラブル発生時の対応」が最も多く、次いで「誤作動による交通事故」である。

トラブル、事故等の緊急時への不安が多い

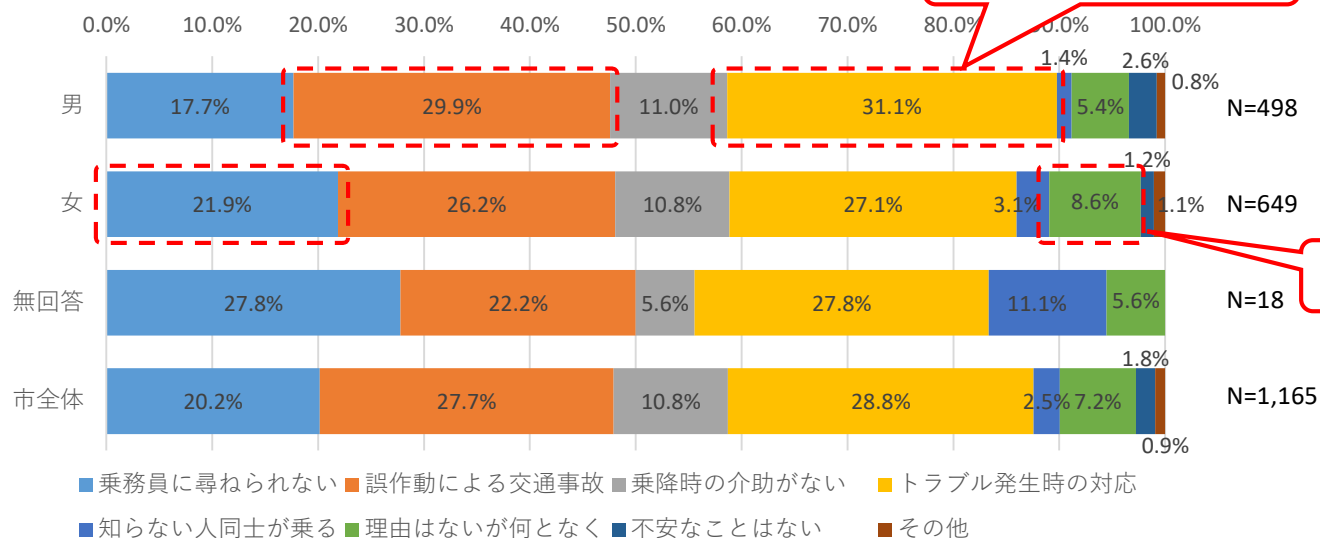
9 その他（自動運転バスへの期待と不安・男女別）

■自動運転バスの導入に期待すること（複数回答）



- 自動運転バスの導入に期待することは、若干の男女差が生じている。
- 「環境への負担が少ない」、「関連企業進出への期待」について、男女差が大きい。

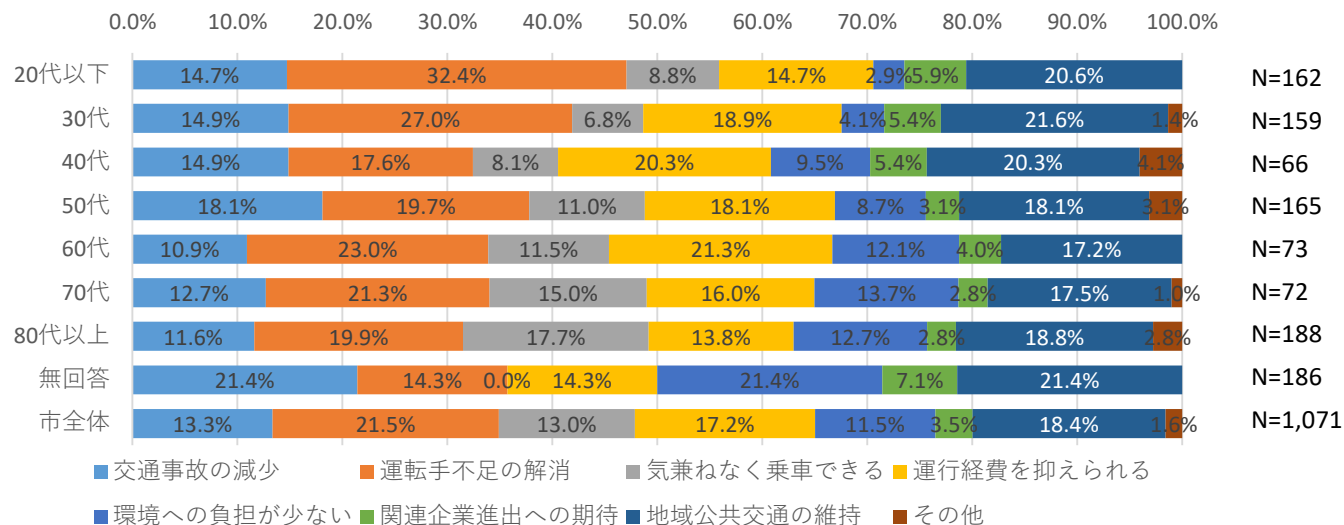
■自動運転バスの導入に不安に思うこと（複数回答）



- 自動運転バスの導入に不安に思うことに大きな差はないが、男性は安全に関すること、女性は利用に関することが多い。

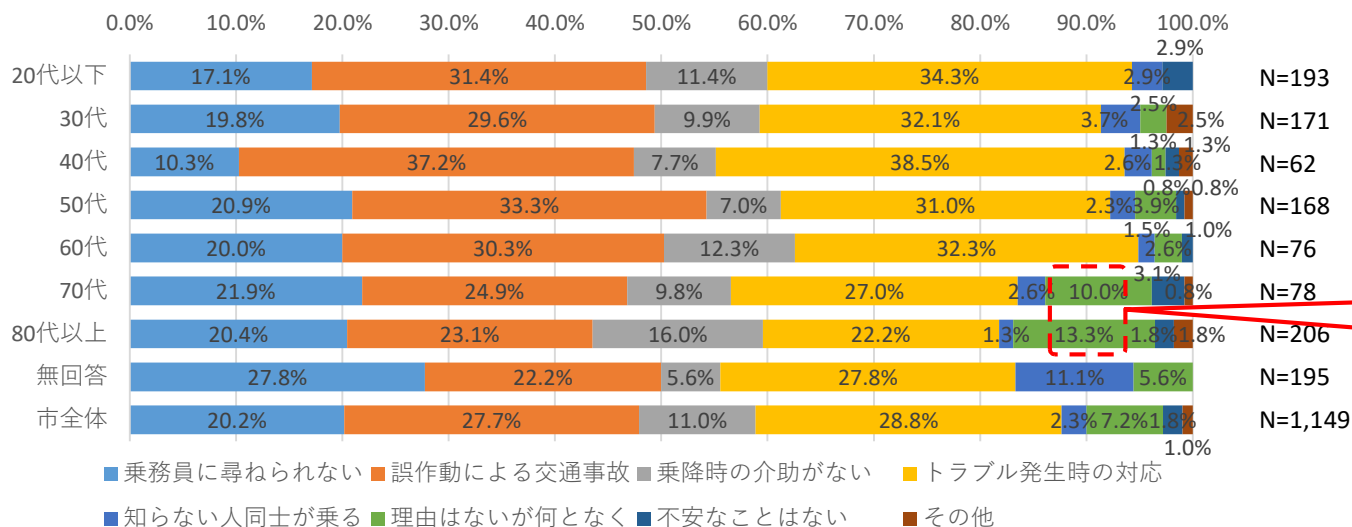
9 その他（自動運転バスへの期待と不安・年代別）

■自動運転バスの導入に期待すること（複数回答）



- 自動運転バスの導入に期待することは、年代が上がるほど「気兼ねなく乗車できる」、「環境負荷が少ない」が高くなる傾向。
- 「運転手不足の解消」、「関連企業進出への期待」は反対に若い年代ほど高い。

■自動運転バスの導入に不安に思うこと（複数回答）



- 自動運転バスの導入に「何となく不安」と思うのは70代以上に多い。

何となく不安は70代以上に多い